

学校行事

健康安全・体育的行事

指定校番号	28003	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立庚午小学校	校長	藤川照彦	生徒指導主事	大下聡子
-----	-----------	----	------	--------	------

取組事例名 『体力週間(長縄跳び)』

取組のねらい『一人ひとりとみんなで伸びる』

- 心身の健全な発達についての関心を高め、運動に親しむ態度を育成し、連帯感を深める。

取組の具体的内容『子どもも教師も一緒になって』

- 1 体育委員会から目的や計画を提案し、各学級で、学級目標、練習計画を決定し、役割分担等を行う。
- 2 休憩時間や体育の時間等を活用し、長縄の練習に取り組む。
- 3 学級活動、朝及び帰りの会を活用し、活動の成果や課題を話し合うとともに、課題の改善に向けた話し合いを行う。
- 4 大休憩・昼休憩を利用し、記録会を行う。記録会は3日間に分けて行い、1回ごと結果を廊下に掲示し、問題点や工夫点について話し合い、改善を図る。
- 5 結果を校内放送で発表し、取組の成果を評価する。
- 6 児童アンケートを行い、活動を振り返る。

取組の課題・創意工夫『仲間とうまく跳ぶにはどうしたら良い?』

- 【児童の取組】**
- 活動のねらいを学級で話し合い、集団の一員として、自主的・自立的に活動に取り組む。
 - 各学級で決定したねらいを達成するための、練習計画、役割分担、練習方法等について話し合い、決定する。
 - より多く跳べる方法について、適宜、学級で話し合う。(跳ぶ順番、跳び方、長縄が苦手な児童へのサポート方法、仲間への声かけ等)
- 【指導者の取組】**
- 長縄跳びに意欲的に参加できていない児童に対し、頑張っていることを個別に褒めたり、認めたりし、当該児童が意欲的に参加できるようにする。
 - 体育の時間等を活用し、児童がじっくりと練習に取り組むことができる時間を確保する。
 - 国語科の時間等を活用し、よりよい話し合い活動を行うための指導を行う。

取組の成果(効果)『私の成長・仲間の成長・学級の成長』

- 【子どもの感想から】**
- ・ 長縄跳びが上手になりました。あと、長縄跳びが大好きになりました。
 - ・ 1年生のときは、あまり外に出て遊んでいなかったけど、長縄跳び大会が近くなると、みんなで外で練習をしていたら、たくさん外で遊ぶようになって、体力がついてとても楽しかったです。
 - ・ 最初は、後ろから押してもらっていたけど、跳べなかったです。でも練習をしてから3週間くらい押してもらって、今では、跳べるようになって、チームのみんなが「よくがんばったね」と声をかけてくれました。跳べるようになったのは、チームのおかげだったと思います。
 - ・ M君が最後の大会の日、長縄を跳べるようになっていてすごいなと思いました。練習を一生懸命したら、できないこともできるようになるんだと思います。
 - ・ 長縄に取り組んで学んだことは、人を思いやることです。跳べない子がいたら、後ろから押してあげたり、アドバイスをしてあげて皆で跳べるようにして、きずなを深めました。努力をして皆の心がわかり始めると、結果も一緒についてきてくれるのです。
 - ・ 練習の時、いっぱい引っかけたけど、せめる声はなく、「ドンマイ」「だいじょうぶ。集中」という声が聞こえました。みんなのはげましの声は、勇気づけてくれる魔法の言葉だなと思いました。

【教師の振り返りから】

- 不登校児童を誘って参加させることができたり、足の不自由な児童が縄に入れるスピードを工夫したりするなど、学級や個々の児童の実態に応じて、工夫することができた。(6年)
- 長縄跳びが苦手だった児童が、できなかったことができるようになり、成功体験を味わうことができた。(1年)
- 学級で毎日練習し、記録が伸びていくことを通して、児童が達成感をもつことができた。(3年)
- 友達同士で教え合ったり、認めあったりすることを通して、学級内の仲間意識が高まり、学級のまとまりがでてきた。(3年, 5年)
- 休憩時間、うまく跳べない1年生を見た6年生が、1年生に跳び方をアドバイスしたり、体育の授業で4年生が上手に跳ぶ姿を3年生が見て、3年生から4年生に「教えてほしい。」と依頼したため、3年生からの依頼を受けた4年生が3年生に指導したりするなど、異年齢による交流が促進された。(1年)

【アンケート結果】

年	①長縄が 上達した		②友だちのことが分か ったり、仲良くなったりした		③外で遊ぶよう になった	
	思う	思わない	思う	思わない	思う	思わない
1	94%	6%	91%	9%	87%	13%
2	94%	6%	88%	12%	70%	30%
3	97%	3%	86%	14%	80%	20%
4	91%	9%	82%	18%	76%	24%
5	98%	2%	91%	9%	67%	33%
6	95%	5%	86%	14%	51%	49%
全校	95%	5%	87%	13%	72%	28%



今後の展開『達成度を評価』

- アンケート結果「②友だちのことが分かたり、仲良くなったりした」の項目において、すべての児童が「思う」と回答できるための取組となるように検討を重ねる。
- 回数にこだわる傾向があるため、児童に対して、適宜、取組のねらいを確認する場面を設定する。
- 「個人は勿論、学級がどれだけ成長できたか。」ということを各学級で評価することができるように「振り返り」を充実する。

他校へのアドバイス『毎年の積み重ね』

- 成長段階によって、めあてを変えて取り組むと良い。
- 例) 低学年は長縄を跳べるようになること。学年が上がれば、クラスの目的を考え、達成することに焦点を当てる。
- 長縄跳びの長所は、少し難しいことに挑戦できること、1年生から6年生まで参加可能であること、子ども達が自ら作戦を立て、その工夫や努力が数値として短時間でフィードバックされることである。

指定校番号	28057	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	北広島町立八重小学校	校長	神川 義紀	生徒指導主事	吉川 孝志
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『校内駅伝大会』

取組のねらい 『異学年交流』

数年前まで、本校では体育の時間に行う持久走の練習成果を「マラソン大会」とし学校行事で行ってきた。ただ、マラソン大会は個人としての頑張りが評価される場面がほとんどで「みんなで喜ぶ」という場面が非常に少なかった。加えて、学年という垣根を飛びこえての交流、当日だけでなくその日に向けてのつながり、行事後にも生かせる望ましい人間関係づくりなどを考えいく中で、マラソン大会から駅伝大会へと変更することとした。「箱根駅伝」や「ひろしま男子駅伝」の影響もあってか、児童もたすきをつないでいく駅伝に非常に興味をもっており、マラソン大会から駅伝大会への移行はスムーズに行われ、これ以後 2 学期後半、全児童による校内駅伝大会を行うようにした。学校行事ではあるが、児童会（6 年生）を中心に事前・事後の取組を行っている。下学年にとっては「ぼくたち、わたしたちも大きくなったら、あんな風に走りたい（がんばりたい）」というあこがれの対象を具体化させ、なりたい自分をイメージさせるのに役立ち、上学年にとっては、「自分たちがチームみんなをまとめて引っ張っていくのだ。」という責任を自覚させ、取り組ませることで自己有用感や自己肯定感の向上につなげていく。

取組の具体的内容 『学年をこえた絆づくり』

チームはふだんの掃除などで使っている「やえっこ班」を活用。全部で 12 チーム、1 チーム 12 名から 13 名で、各学年 2 名（人数の多い 5 年だけが 3 名）といった人数編制だった。縦割り活動班の「やえっこ班」を活用し、12 チームを作る。全 14 区間を、高学年区間 0.9 k m、中学年区間 0.7 k m、低学年区間 0.6 k m に分ける。校庭のトラックを使い、そこから校外に飛び出していく形でコースが設定してあり、区間によって折り返し地点などが遠くなったりしている。校庭のトラックでは、各チームの児童が自分のチームの応援をしており、学校の外では、保護者や地域の人たちがランナーに声援を送っている。各折り返し地点やコースの要所には職員を配置し選手の誘導や安全の確保、声かけなどを行う。「やえっこ班」は毎日の掃除にも活用しており、異学年であっても、顔と名前が一致する利点がある。チームを 12 に分けることで、ほとんどのチームに 6 年生（23 名）が 2 名入ることになり、6 年生全員がキャプテン、又は副キャプテンの責任を負うことになる。欠員が出た場合は、原則同じ区間を走る学年の児童が 2 回走るようになっている。

- 1 区（中学年）⇒ 2 区（高学年）⇒ 3 区（低学年）⇒ 4 区（中学年）⇒ 5 区（高学年）⇒
- 6 区（低学年）⇒ 7 区（中学年）⇒ 8 区（高学年）⇒ 9 区（低学年）⇒ 10 区（中学年）⇒
- 11 区（高学年）⇒ 12 区（低学年）⇒ 13 区（中学年）⇒ 14 区（高学年）

取組の課題・創意工夫 『チームとしての結束力を高める』

駅伝大会の本番まで 20 日くらい前に、チーム結団式を行う。これは、お互いの思いを伝え合い、確かめ合いながら、成功イメージを共有し、気持ちを一つにする活動である。この式に先立ち、6 年生は班の目標を決め、それにふさわしいイラストやデザインなど画用紙に描く。結団式では、6 年生が用意した画用紙にチーム全員がプラスの姿を書き込んでいき、書いたら自分のサインを入れる。こうすることで、自分はもちろん、全員が安心感をもって走れるようにする。最後に一人ずつ自分が書いたプラスの言葉を紹介する。こうして各チームでの話し合いが終わると、今度はチーム毎に全児童の前へ出て、チームの目標、この目標を設定した理由、チームのかけ声を紹介していく。この日以降、チームごとの練習がスタートする。



取組の成果（効果） 『なりたい自分（モデル）の発見と自己肯定感の向上』

駅伝当日、欠席者0名、足の怪我などによる見学者2名。運動が苦手な児童も多数完走。校庭では6年生を中心に懸命に走るチームメイトに大きな声で声援を送る。コースに立っている教職員はもちろん、沿道の保護者や地域の方々からも大きな声援をもらい、子供たちの頑張りは最高潮に。駅伝は、先頭以外はマラソンのように一斉スタートではなく、周回コースなので、個人順位も正確には分からず、自分のペースで走れるという利点もある。走りが得意な子はもちろん、走りが苦手な子も大きな拍手とともにチームメイトに迎えられ、みんないい笑顔に。その中でも高学年、特に6年生の頑張りは素晴らしい。病気やケガで走れなかったチームメイトのために、あるいは欠員補充のために、たとえ走るのが苦手であっても2区間走る姿は、下学年の児童の目に焼きつき「自分たちも大きくなったら、あんな風に走るんだ！」という絶好のモデルケースになる。また、6年生を中心とした高学年は自分たちの頑張りに対し、下学年や教職員、地域の方からもらった声援が自己有用感や自己肯定感を高め、新たな活動への自信と意欲づけになる。走り終わった後は、結団式で書いた紙を手に、チーム毎に記念撮影をし、駅伝大会を通しての反省会を行った。



※学期ごとに全校で実施している「今の気持ちアンケート」での肯定的割合

	1 学期		2 学期
6 年生「自分のことが好き」	87%	⇒	96%
「自分のいい所は、みんなにわかってもらっている」	91%	⇒	91%
「学校生活が楽しい」	87%	⇒	96%

今後の展開 『継承』

駅伝大会後に撮影した写真は、6年生が卒業するとき、各班のメンバーが6年生に寄せ書きをする色紙の中心に貼る。この日以後、日々の掃除などでの縦割り班活動にいつそうまとまりが見られるようになる。今後は、6年生というモデルを胸に、各学年がよりよい自分、集団をめざして活動をしていく。特に、3学期の「6年生を送る会」に向けて、感謝の気持ちを込めた出し物を考え、本番では各学年が今後の学校生活における決意表明をしていく。

転校生で初めて駅伝を経験した児童は持久走が苦手だったが、「来年はもっと早く走れるようになりたい。みんなの声援がうれしかった。」と感想を書いた。また、ある4年生は「自分が1区で出遅れたけれど、チームのみんながあきらめずに走ってくれたのがうれしかった。今年最高の思い出になった。」と感想を書いていた。

他校へのアドバイス 『異学年交流のパワー』

異学年交流が学校の核になっていくと、素晴らしい伝統が築き上げられていく。先輩の頑張りを見て、後輩がその姿を見て頑張る。さらにその後輩が先輩の姿を見て頑張ることを繰り返していくうちに、先輩の壁も少しずつ高くなり、さらによいものをめざして取り組んでいくようになる。このプラスの連鎖が異学年交流のパワーの源であり、物事を前向きにとらえ、一生懸命に取り組む児童の育成に役立つものだと信じている。

指定校番号	28074	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組例」

学校名	吉島中学校	校長氏名	高畑 伸穂	生徒指導主事氏名	後藤 貢
-----	-------	------	-------	----------	------

取組事例名 『体育祭 縦割り活動』

取組のねらい 『キーワード共感的人間関係づくり』

体育祭の縦割り活動、吉中ソーラン、色別の集会・練習・応援等を生徒主体で展開し取り組める集団づくりをめざす。それにより学年を超えた生徒相互の良好な人間関係を育む。

取組の具体的内容 『キーワード上級生から下級生に継承』

縦割り集団で、3年生のリードの下、当日までの取り組みや当日の応援を行うことで1、2年生に次年度は自分たちでやるという意識をもたせる。

本年度は下級生への指導を上級生に任せ、全校生徒による吉中ソーランの練習や種目の合同練習を実施した。また、各色の応援歌を考え練習したり、上級生が自発的に計画し、下級生の各教室を巡り、団結を呼びかけ、大会前の士気を高めるなど意欲的に取り組んだ。



【体育祭色別集会：縦割り活動開始】



【色別練習：3年生からの指示】



【2年生のソーラン練習】



【各色別の法被を着て士気を高める生徒達】



【色別の法被を着て踊る吉中ソーラン】



【閉会式での成績発表】



【色別集会：体育祭の縦割り活動終了】

取組の課題・創意工夫『キーワード事前の取り組みをしかける』

昨年度は事前に教師側でリーダーとなる学年を中心に指導を十分に行い、共に取り組んだが、本年度は上級生主体の下級生に継承する為の合同練習を実施した。各学年からリーダーを選出させ、各種目の上級生リーダーが下級生リーダーを指導し、そのリーダーが自身の学年の指導を行った。今後この縦割りの取り組みが体育祭だけでなく、文化祭の合唱発表やその他の活動にもつなげて行く。



【文化祭（合唱コンクール）の縦割り練習会の様子】

取組の成果（効果）『キーワード所属意識の高まり』

今までの学級単位の競技・競争から異学年での集団になったことで、より仲間意が高まりそれによつてどの生徒もより一層応援や競技を頑張るようになった。

特に生徒主体にした本年度は上級生がよりリーダーシップを発揮し、当日も率先して競技を盛り上げていた。下級生もよく協力し積極的に取り組み、来年のリーダーシップに期待できそうである。



【体育祭当日3年生リードの応援合戦】

今後の展開『キーワード本校の伝統に』

今後も生徒主体の取り組みをより充実させ継承させていき、体育祭、合唱祭のみならず、様々な活動で行えるようになるよう展開していくにまだ課題があるが、仲間を大切に思いやる生徒の集団の育成を図り、共感的な人間関係を育む生徒の育成のために取り組んでいきたい。

他校へのアドバイス『キーワード全教員で取り組む』

生徒主体が生徒任せになり、中身のない取り組みにならないよう、全教員が共通認識の基しっかりと、充実した活動ができるようになるまでサポートし導く。

指定校番号	28076	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立江波中学校	校長	大本 司	生徒指導主事	望月 慶輔
-----	-----------	----	------	--------	-------

取組事例名 『小中部活動交流会』

取組のねらい『キーワード：小学校から中学校へのスムーズな接続』

- ・小中連携行事を通して、小学生に中学校の良い面や頑張る生徒の姿を見せることで、小学6年生の中学校入学に対する希望と安心を与えるとともに、その取組を通して、中学生に自己有用感を持たせる。
- ・小学生同士の連携、交流に中学生が関ることを通して、中学生が、児童の人間関係を把握するとともに、自主的に児童に関わろうとする資質を高める。

取組の具体的内容『キーワード：小学生をメインに』

- ・神崎小、舟入小、江波小の小学6年生が江波中で部活動体験に参加する中で、生徒が自主的に児童の活動を支援する。
- ・参加者は小学校で希望を取り、グループを振り分ける。それぞれのグループに中学生をリーダーとして据えることを想定し、どの様なことができるかを中学生が主体となって決める。
- ・教員は、中学生の活動の様子を観察し、基本的に、中学1・2年生が指導を行えるような支援に留める。また、中学生は、小学生に実際に活動をしてもらうことを重視し、児童へのサポートに徹する。

取組の課題・創意工夫『キーワード：生徒が主体となって』

- ・全体会の司会など、生徒会執行部や部長会が中心となり、中学生が運営を行った。
- ・各クラブの部長を中心に、どうすれば小学生に多くの体験をしてもらえるのか、各部でミーティングを開き、内容を考えた。また、顧問に相談し、内容の確認をもらうなど、事前に準備を進めた。
- ・多くの人数が参加する部活では、その中で更に小グループを作り、それぞれのグループに中学生が分かれてつくなど、きめ細やかな対応を心がけた。



取組の成果（効果）『キーワード：自己有用感の向上』

- ・部活動交流会の後に行ったアンケートから、95%の小学生が、中学生に教えてもらうことを喜んでいる。また中学校の雰囲気を知ることができ、安心することができたという回答も90%を越えている。
- ・中学生も、全体会の運営から、小学生の指導まで、全てを自分達で行うことで、達成感や、上級生としての自覚を深めることができた。また、部活動交流会後のアンケートから、85%の中学生が、小学生に頼られることで、自己有用感を感じているという結果だった。

今後の展開『キーワード：小学校から中学校へのスムーズな接続』

- ・2月には、中学校の教員が各小学校で出前授業を行い、中学校の授業を体験してもらう。また、生徒指導主事、教務主任が中学校の生活のルールや授業の様子について小学生に説明することで、小学生が安心して中学校に入学してもらえるような取組を続けていく。

他校へのアドバイス『キーワード：準備の大切さ』

- ・本番を中学生に任せるために、全体会を運営・進行する中学生の指導、リハーサル、部長会の指導など、事前の準備をしっかりと行ったことが、当日の成功につながった。また、小学校とも事前に連携し、希望通りの部活動に参加できるように人数調整を行ったり、身体的な配慮を要する児童の様子について、事前に打ち合わせを行うなど、小中での連携を密に行った。

指定校番号	28077	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立福木中学校	校長	笹田 清浩	生徒指導主事	平田 琢巳
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『縦割り活動を生かした体育祭』

取組のねらい『キーワード 生徒同士の共感的な人間関係』

- ・縦割り活動（異学年交流）
- ・上級生が下級生の手本となり下級生を思いやり、下級生が上級生を尊敬しながらお互いの励みとする。
- ・3年のリーダーによるダンス練習計画や教室の管理、取組すべてを企画して当日では最上級生のダンスを演技する。

取組の具体的内容『キーワード 縦割りでの協力』

- ・体育祭実行委員会、各係会で運営する。
- ・体育祭の予行準備や前日準備、片付けを部活動で割りあてる。
- ・学年を3色の色別の競技を行い、縦割りの意識を高めて合計点で総合順位を決定する。



吹奏楽部演奏【行進曲・君が代・校歌】



入場行進前全体集合



放送部アナウンス

取組の課題・創意工夫 『キーワード もっと縦割り活動を』

- ・縦割り活動を工夫して予行後に上級生の活動の場を設ける。
- ・縦割り合同練習の時間を確保して作戦の交流、練習を仕組んで上級生の場を取り入れる。
- ・団長の活躍の場を設けて生徒自ら体育祭に打ち込める体験をさせるとともに1，2年生にも共感を持たせる。



3団選手前進



青組（1組）



赤組（3組）

取組の成果（効果）『キーワード 上級生のリーダーシップ』

・昨年度の学年集団ではどうなるかと不安な一面も見られたが、「去年より今年、自分たちの体育祭」を特に3年生は意識していた。今年度当初から「私たちが、俺たちがリードする」という意気込みが感じられた。

・体育祭では、生徒会により開会式と閉会式を運営し、団長を先頭に縦割り団での入場行進を引き続き取り入れた。



3年生徒によるダンス



閉会式 団集合



閉会式（表彰）

今後の展開『キーワード すごい福木中にしちゃおう』

- ・「今年の3年生に続け、追い越せ、新たな福木中学校をつくっていこう。」「すごい学校にしちゃおう。」
- ・生徒会の活性化と3年リーダーの育成と生徒同士で関わりを工夫して達成感を体験させていきたい。

他校へのアドバイス『キーワード 達成感が味わえる体験を大切にしたい学校づくり』

・学級での係活動や生徒会を中心とした学校行事を通して、生徒同士のつながりを大切にさせて生徒たち自身の思いや意見を聞き入れる。その中で教職員自身がスモールステップと次の一手をしっかりと考えて仕組みで達成感が味わえる体験をさせていきたい。

指定校番号	28082	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立亀山中学校	校長	松田 裕二	生徒指導主事	今橋 正智
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『体育祭』

取組のねらい『キーワード 生徒指導の3機能をいかした行事』

体育祭を通じて、生徒一人一人が自己存在感、共感的人間関係、自己決定を育めるようにする。また、規範意識や倫理観、他人への思いやりなど、集団や社会の一員としての自覚や豊かな人間性を育む。

取組の具体的内容『キーワード 責任を持ち、自己存在感を育む』

- ・初めての集団行進演技
- ・生徒会執行部、実行委員、応援団からの服装指導
- ・生徒会執行部を中心としたオープニングダンスの取り組み
- ・実行委員を中心とし、生徒が立案したブロック練習
- ・応援団を中心とした応援練習
- ・生徒が主体となった当日の運営
- ・全員で責任を持って行う当日の後片づけ



【写真】生徒による応援演舞

取組の課題・創意工夫『キーワード 教職員も一丸となって』

昨年度まで一部の教員に負担がかかっていた部分があったが、教職員で役割分担ができた。当日教職員が登場しなくても、生徒が主体となって行えるように、そこまでのサポートを各教職員で行った。また、当日は朝6時にはボランティアでほとんどの教員が学校に来ている状態であり、このことから教員が一丸となったことがうかがわれる。

課題として、不登校生徒など、全校生徒が参加できていないので、どのような形でもよいので、行事全員参加を目指したい。

取組の成果（効果）『キーワード リーダーの育成 共感的人間関係の育成』

- ・全力で取り組むこと、妥協しないで取り組むこと、協力して取り組むこと。一つのことをみんなで取り組むことの大切さやすばらしさを生徒が体験することができた。
- ・自分の役割に責任を持ってやり切ることの大切さ、大変さを学ぶことができた。
- ・リーダーとしてまとめていくことの大変さ、またその経験を通して成長することができた。
- ・感想文や、学級通信、学年通信、学校便り、ホームページでフィードバックし、自己肯定感を高めた。



【写真】

生徒会執行部がリーダーシップをとり、最後に全校生徒が円陣を組んだ場面。初めてのことであり、また、教員主導ではありません。

今後の展開『キーワード 日常生活にいかす』

- ・その後文化祭、PTC、教育研修旅行、生徒会執行部といった行事が続くが、行事で学んだことを日常にいかしていけるように学校朝会や学年集会、学級で生徒に伝えていく。
- ・文化祭では体育祭よりも全員参加に近づけることができた。

他校へのアドバイス『キーワード 教員は当日までの手助け』

- ・当日はなるべく教員が登場せずに、生徒が主体的にいきいきと活動できるように、そこまでの手助けを教員が役割分担のもとしっかりとする。

指定校番号	28084	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島市立瀬野川東中学校	校長	小島 清資	生徒指導主事	澤井巳喜男
-----	-------------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『第 28 回 体育祭』
取組のねらい	『キーワード 自覚 責任 自己表現 健康・安全』
<p>1 集団の一員としての自覚を持たせ、社会性と責任感を養う</p> <p>2 堂々と自己を発揮する力を養う</p> <p>3 心身の健全な発達を促進する</p> <p>4 健康・安全の習慣・態度を培う</p>	
取組の具体的内容	『キーワード 全力 主体性 協働 礼節』
<p>生徒指導の三機能を活かした、特別活動（体育祭）における生徒指導の推進</p> <p>1 生徒に自己決定の場を与える取組</p> <p>(1) 出場種目について、全体演技、個人競技（学年別・男女別）、団体競技（学年別・男女別）、選抜競技（全体・各学年）の中から、生徒一人一人に自分の出場種目を希望・決定させる。</p> <p>2 生徒に自己存在感をあたえる取組</p> <p>(1) 赤組・青組・黄組・組緑の縦割り学級群各組ごとに団長を選出・決定させ、各組内における指示・連絡や練習・応援時のリーダーシップをとらせる。</p> <p>(2) 各組別練習において、団長・生徒会執行部が中心となって練習計画を立てさせ、2・3年生全員に責任を持って1年生全員を指導させる。（ラジオ体操第2・長縄跳び）</p> <p>(3) 係分担に基づいて、各係生徒全員に責任を持って各係活動を行わせる。</p> <p>3 共感的関係を育成する取組</p> <p>(1) 縦割り学級群組別の活動において、自主的な声掛けや励まし合いを工夫させる。</p> <p>(2) 各係ごとの活動において、主体的な連携・協働による活動を意識させる。</p> <p>(3) 全力で競技・演技する生徒に対する自然発生的な拍手を促す等、正しい賞賛の方法を体感させる。</p>	
取組の課題・創意工夫	『キーワード 組織 連帯 団結 一体感 統一感』
<p>1 生徒に自己決定の場を与える取組</p> <p>(1) 全校生徒一斉の集団演技における指揮者への立候補を募り、各演技・競技内の役割分担についても、各学級・縦割り学級群各組内で希望に基づいて決定させる。</p> <p>2 生徒に自己存在感をあたえる取組</p> <p>(1) 練習時において模範演技の披露・見学場面を設定し、意欲喚起と自信・プライドの獲得を図る。</p> <p>(2) 生徒全員による統一感のある全体演技を反復練習し、集団の一員であることを実感させる。</p> <p>(3) 各学級対抗の集団競技練習時間を期間内の朝・昼休憩時に設定し、各学級の一体感を実感させる。</p> <p>3 共感的関係を育成する取組</p> <p>(1) 意欲を持ち、連帯・団結して演技・競技に取り組むことを意識しやすい雰囲気づくりのため、生徒間における自主的な声掛けや励まし合いを促すよう努める。</p> <p>(2) 温かい雰囲気を創出するよう、応援パターンの確認や自然発生的な拍手を促すよう指示を出す。</p> <p>(3) 振り返り時にアンケートを実施し、評価内容を個人・学級にフィードバックする。</p>	

取組の成果（効果） 『キーワード 充実感 信頼 地域ぐるみ』

生徒の感想文で、「目標を決め、係分担、各競技で自分の役割やがんばりを肯定的に捉え、仲間とともに精一杯やり遂げた充実感を感じた」という内容のものが多数あった。

また、今年も体育祭に多くの保護者・卒業生・地域の方々の来校があった。各方面から貴重な御意見をいただいた。保護者アンケートで、生徒の真剣な取組の様子に肯定的な意見が多数あった。

今後も、効果的な生徒指導の取組の一つとして体育祭を位置づけるとともに、充実・改善に努め、地域から信頼される学校づくり・地域ぐるみの教育に繋いでいきたい。

今後の展開 『キーワード 報告 連絡 相談 共感的理解』

体育祭終了後の反省会において、気付きをもとに、報告・連絡を行った。全教職員が、生徒一人一人の努力した点、がんばった点を共感的にとらえて声かけを実践し、多くの生徒との信頼関係の構築に努めることを確認した。

生徒一人一人が、今後の学校生活で体育祭の成果を肯定的に捉え、自尊感情を深めて何事にも前向きに取り組むことができるよう、指導・助言を重ねていくことを確認した。

今後も学校行事への取組を通じ、傾聴に重点を置いた教育相談を継続し、共感的理解・共感的実践に努めながら、生徒の規範意識・自尊感情の涵養を目指したい。

他校へのアドバイス 『全校指導体制』

学校行事を生徒指導の絶好の機会としてとらえ、「ねらい」を明確にして全教職員が共通認識を持ち、足並みを揃えての対応が最も重要であることを改めて確認することができた。

また、生徒との信頼関係構築を図ろうとした時、学校行事への取組を積極的に活用することは、ベクトルを揃えやすく、生徒一人一人の長所を把握し、努力やがんばりを認めてやるのが比較的容易であることから、生徒理解・指導をすすめるうえで有効であると捉えている。



全校生徒による演技「ラジオ体操第2」



「みんなでジャンプ 2nd Stage」(長縄跳び)

指定校番号	28089	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立東中学校	校長	高橋 延昌	生徒指導主事	山口 裕三
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒たちが自主的・協働的・実践的に創り上げる体育大会』

取組のねらい『キーワード すばらしい伝統の継承；すばらしい行事と歌声のある学校』

東中学校がめざす学校像には「東中学校 4 つの特色」があります。その 1 つが「すばらしい行事と歌声のある学校」の実現です。東中学校の年間行事の中で、「体育大会と文化祭」は重要な特別活動の内容として位置づけ、計画的に取り組む大きな行事となります。特に 3 年生にとっては中学校生活最後の行事となり、今までの特別活動・学校行事等を通して集団行動を学び、身に付けた 3 学年集団の力を発揮する舞台となります。東中学校の体育大会は伝統として、生徒たち自らの主体的・協働的な活動を中心に、3 年生が学年の枠を超えた異年齢集団（1 年・2 年・3 年それぞれの 1 クラスが 1 つの色集団になる）のリーダーとなり、最高学年の自覚をもって、1 年生・2 年生の最高のモデリングになるため、全力で取り組んできました。また、教職員も年間を通じて特別活動の主たる目標「望ましい集団活動を通して、自主的、実践的な態度を育成することや、自己の生き方についての考えや自覚を深め、自己を生かす能力を養う」等を意識し、体育大会の取組の柱であると考え、さらに、この活動を通して自己指導能力を身に付けるための積極的生徒指導の実践に向け、すべての教職員で取り組んでいます。



取組の具体的内容『キーワード 過去最高の体育大会を創る』

特別活動の年間計画の中でも（学校行事；体育大会）は生徒指導にとっても重要な教育活動の場になっています。特別活動の指導において次の 3 点（生徒指導の三機能）を重視して取り組んでいます。まず 1 点目は「生徒に【自己決定】の場や機会をより多く用意し、生徒が自己実現の喜びを味わうことができるようにする」ことです。次に「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」ことです。3 点目は



「生徒と教職員の信頼関係及び生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」ことです。東中学校の体育大会のテーマは「過去最高の体育大会」というものです。特に、3 年生は過去の 3 年生の姿と自分たちの姿をだぶらせ歴代最高の 3 年生になることを目標に各色のリーダーとして頑張っていました。3 年生は各色をまとめる応援団長と応援団を組織します。多くの生徒が応援団に立候補しますが、その他にも学級旗を作成するメンバー、色別の選手種目、学年の選手種目等の中から自分の役割を自己決定し、責任を持ち取組を進めていきます。この取組には「生徒に【自己決定】の場を与える」という要素があります。応援団からは応援団長が決められ、団長の強力なリーダーシップの基に応援団が団結し、応援合戦の内容を決定していきます。この活動では様々なトラブルが発生し、生徒自らその課題を解決しようと真剣に取り組んでいるときに「生徒相互の【共感的な人間関係】を育てる」感性が醸成され、お互いを励まし合い、自分の役割に責任を持ち活動する姿が生まれ、その結果が「望ましい集団の育成」への取組に繋がっています。また、多くの方が 3 年生の真摯に取り組む姿を「今までで最高の体育大会だった」と評価されたとき、「生徒に【自己肯定感・自己存在感】を与える」教育活動の場と

なり、その後の特別活動（学校行事；文化祭・卒業式）へ発展させることができたと考えています。

取組の課題・創意工夫『キーワード リーダーシップと異年齢集団』

体育大会は色別の異年齢集団で活動します。特に3年生は2年生・1年生に対し、指導することがたくさんあります。応援合戦の内容は3年生の応援団が自らで考え、自主的・創造的に「歌やダンス」を決定していきます。応援団が考えた「歌やダンス」を指導するとき、応援団長が強力なリーダーシップを発揮し、応援団の仲間がそれをサポートしていきます。3年生の活動に刺激され、2年生の応援団も協働し、1年生に対して丁寧に指導していきます。それらの活動を通じて、教職員が適切・適時に評価することから生徒たちの意欲を高揚させ、意識的に生徒を支援する言葉かけを工夫するようにしています。

取組の成果（効果）『キーワード 最高学年の自覚』

「今日は結団式がありました。すごくやる気の出る式でした。本当に私たちが『引っ張って行くんだな』っていうのと、校歌・行進だけではなく、積極性や人間性において、後輩のお手本になるということが、すごくわかりました。全てにおいて観られているという自覚をもって、全力で頑張っていきます。」

「私たち3年生にとって最後の体育大会だったので記憶に残る最高の体育大会にしたいという想いでいっぱいでした。黄組は3年生が2クラスで意見がバラバラになりぶつかること

もたくさんあって、とても大変でした。でもみんなは、最後まであきらめず、応援団として行動できたと思うし、1年生も2年生も体育大会本番直前にかかわることがあっても何も文句を言わずにしてくれてとてもうれしかったです。」 【3年生 生活記録の感想より】



「放課後応援団の練習がありました。まず校歌の練習をしました。大きくそり、大きな声で歌わなければいけないのできつかったです。次に行った行進も手をしっかり振り、足をしっかりあげないといけないのでこれもきつかったです。『先輩たちはすごいんだ』と感じた最初の練習でした。」

「応援団の結団式がありました。私は小学校のときにしたけれど、それとはレベルが違い3年生2年生の先輩たちの本気が伝わってきて私も本気で全力で声も出していました。」

「今日結団式がありました。校歌と行進の練習をしました。練習をする前に先輩方が見本を示してくれました。パワフルな声とピシッとした行進がとてもカッコ良かったです先輩方を良く見て本番も練習もがんばります。」 【1年生・2年生 生活記録の感想より】

今後の展開『キーワード 文化祭と卒業式を意識する』

生徒に年間の学校行事を意識させることが重要と考えています。体育大会は色別の異年齢集団で歌声やダンスの取組と「全体行進」の成果を競うこと、文化祭は各学年が学年集団の力を合わせ、ステージで発表することから「全校合唱」へ発展させる取組につなげます。最終的にどんな卒業式にしたいか意識させることが重要だと考えています。

他校へのアドバイス『キーワード ほめるタイミングとしかるタイミング』

特別活動（学校行事）で生徒が真剣に活動するとき、「ほめるタイミングとしかるタイミング」が大切です。生徒が失敗し自信を失ったとき、それを「しかるタイミング」ではないと考えて指導します。逆に、生徒が自信にあふれているとき、「しかるタイミング」があると指導します。「ほめるタイミング」を常に意識し、生徒が少しでも頑張れたとき「ほめるタイミング」だと考えています。

指定校番号	28091	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	福山市立大門中学校	校長	二畑 芳信	生徒指導主事	尾山 健太
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『一年間を通しての縦割りの活動 ～体育祭から～ 』

取組のねらい 『キーワード : よりよい集団にするために 』

- ・一年間を通して縦割り集団による競い合いを仕組み、行事だけでなく日常の生活の中から集団の一員としての意識を高め、協力することの重要性などを理解させる。
- ・縦割り集団による、競争や協働の経験を通して、充実感や達成感のみならず、公正に行動し、進んで規則を守り、互いに協力して責任を果たすなどの社会生活に必要な態度を養う。

取組の具体的内容 『キーワード : リーダー性を養う 』

・3年生の中から各クラス1名ずつの団長を決定し、男女1名ずつの副団長も決め、このリーダーを中心に、クラス・縦割りの集団が活動をしていく。縦割り集団としての練習時間を多く設けて体育祭に臨ませる。このように生徒指導の三機能（自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的人間関係を育成する）を意識させながら集団としての力の向上につなげている。特に、最上級生である3年生にはリーダーとしての自覚と責任を意識させて行動するように指導を行った。

取組の課題・創意工夫 『キーワード 課題に向き合う 』

・活動する中で、生徒の思いが他の生徒にうまく伝わらない場面も見られる。リーダーとして声かけの仕方やタイミングなどが課題である。その半面、教職員がサポートをしていけばリーダーだけではなく、集団として成長できる部分でもある。担当の教職員と団長を中心とした応援団の生徒で打ち合わせや練習後の反省をすることで失敗をしたときにはどうすればよかったのか、なぜ集団が上手く動くことができたのかなどを考え意見交流させた。その活動を通して、課題の解決に取り組んだ。

取組の成果（効果） 『キーワード : 他者への感謝 』

・多くの生徒が体育祭終了後の感想で充実感にあふれたコメントを記入していた。特に上級生へ指導してくれたこと・見本となり行動してくれたことへの感謝や下級生へ一生懸命にやってくれたこと・練習以上の行動で協力してくれたことへの感謝が多かった。

○黄組団長
優勝できた理由は2つあると思います。1つ目は、3年生が積極的に1, 2年生にダンスや移動の位置を教えてくれたことです。おかげで移動などをスムーズにすることが出来ました。2つ目は、3年生の説明を1, 2年生がよく聞いてくれたことです。ダンスリーダーを中心に、知っている人が知らない人へ教えることで、全員が理解することが出来ました。3年生はこれが最後の体育祭でした。みんなのおかげで優勝出来ました。練習通りの力を出せた人も、出せなかった人もいます。でも、一人ひとり頑張ったことで、全ての学年で学年優勝を取れたと思います。体育祭で見せた団結力をこのまま、文化祭・マラソン大会で出し、年間の色別学年優勝を取りましょう。



○赤組団長
この体育祭は本当に達成感のある体育祭でした。全体練習が始まった時は、あまり話を聞いてくれなかったり、すぐに動いてくれなかったりで、全然やる気のない雰囲気でした。でも、体育祭が近づくにつれやる気も出てきて、よく話を聞いてくれたり、すぐに動いてくれたり、とてもまとまりのある赤組になりました。結果は2位だったけど、行進・応援で1位になれたのは嬉しかったです。これからも3年生が中心となって、1・2年生をまとめ、総合優勝できるように頑張ります。



○白組団長

体育祭を終えて、リーダーが中心となって動けば、1、2年生も頑張ってくれるということが分かった。1年生は初めての体育祭で分からない事もあったと思うけど、3年生リーダーがみんな頑張ってくれたので、ちゃんと動いてくれました。2年生もよく動いてくれました。3年生は最後の体育祭だからみんな本気でやってくれたし、リーダーじゃない人も1、2年生に指導をしてくれたのですごくうれしかったです。みんな一生懸命やってくれて感動しました。優勝できなかったのは悔しかったです。最初団長は大変だったけど、みんなのおかげでやってよかったです。笑顔で終わってよかったです。



○青組団長

体育祭を団長として終えてみて、みんなをまとめる力がつき、みんなの前で恥ずかしがらずに話せるようになったと思います。最初はちゃんとまとめられず、みんなの前で話すことが恥ずかしかったけど、クラスのみんなや副団長が支えてくれたおかげでまとめられるようになり、恥ずかしさもなくなりました。短い間だったけど1、2年生もちゃんとついてきてくれて、ダンスもちゃんと出来ました。結果は4位だったけど僕にとって、記憶に残る体育祭になりました。次の色別の大きな取組みは、文化祭なので、文化祭で1位をとって総合優勝できるように頑張ります。



生徒アンケートの「あなたは大門中学校に進学してよかったですか」、「あなたは理由なく学校を休みたいと思うことがありますか」という項目に対する生徒の回答は次のとおりである。どちらとも微増であるが変化が見られる。これは、個ではなく集団として活動する中で、仲間意識・所属意識が高まってきており、大門中学校の生徒でよかったですと思えるようになってきたからと考える。



(生徒アンケートより抜粋)

	1学期	2学期
あなたは大門中学校に通学してよかったですか (はいの割合)	93%	95%
あなたは理由なく学校を休みたいと思うことがありますか (いいえの割合)	73%	77%

今後の展開『キーワード：継続する取組』

・体育祭では3年生がリーダーとして先頭に立ち1、2年生を引っ張り体育祭の成功につなげた。3年生としての自覚が芽生え、自信へとつながっている。しかし、縦割り集団での取組は体育祭だけではなく、文化祭やマラソン大会、3年生が卒業するまでの年間通してやっている。そのため、体育祭での姿を継続させていかななくてはならない。また、行事ごとだけで終わらないようにしなくてはならない。普段の生活の中からよりよい集団になっていくために1つの取組が終わった後に評価をして、次へとつなげていく必要がある。生徒の気持ちを切らさないような教職員側の声かけ・働きかけを意識しなくてはならない。

他校へのアドバイス『キーワード：信頼関係の構築』

・生徒自身に考えさせて、行動させることが大切である。しかし、生徒だけの動きにならないように教職員が目指している方向へ生徒を進めていけるように前面に出ないようにしながらサポートを怠らないようにしなければならない。また、生徒の悩みを共に考えることでよりよい信頼関係を構築していかななくてはならない。

指定校番号	28093	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立阿賀中学校	校長	矢野 秀樹	生徒指導主事	平岩 弘文
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『阿賀中学校ソーラン ～受け継ぐ本気の力～』

取組のねらい『キーワード：クラスの団結力』

- 中学校区における小中一貫教育の取組として、昨年度は「伝統の継承」をテーマに取り組んできたが、本年度は「受け継ぐ本気の力」をテーマとして、様々な場面で人間関係の形成と、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。
- ア 中学生はクラスのリーダーを中心に、合同練習や相互評価を通して、阿賀中学校の伝統を継承していく心構えと成長した自分の姿を確認させながら、当日の発表に結びつける。
- イ 1年生は、小学校6年生の時に、現2年生からソーランの指導を受け、アガデミア*発表会に参加した。その時の生徒をリーダーとし、集団づくりの取組の中心にすえるとともに、上級生の迫力ある演技を見学することで、阿賀中ソーランの演技と情熱、心構えを継承させる。

※「アガデミア」阿賀地区の7つの教育機関と地元自治会とで組織する「阿賀学園地域教育連携協議会」の愛称

取組の具体的内容『キーワード：クラス及び縦割り活動』

- ア 体育館での練習（評価のポイントの提示、ビデオの活用、相互評価の実施）
- イ 体育大会当日の演技場所を決定するオーデションの実施（校長が審査）
- ウ 体育大会での演舞評価（学年対抗だけでなく縦割り評価をプラスし、学年を超えて応援させる。）
- エ 総踊り（部活動の先輩が後輩に踊り方を指導、部活動単位で楽しく踊る、地域の方や卒業生も加わっての活動）
- オ 体育大会後の取組（小中で連携した取組）
 - ・小学校の運動会での演舞（1年生有志）
 - ・アガデミア発表会における小学生とコラボした演舞発表

取組の課題・創意工夫『キーワード：リーダーの育成』

- ア 演舞指導は伝統芸能部の生徒を中心とするが、男女の配置や隊形移動、演技のキレなどについて、相互評価をすることで、より良い演技となるようにしている。
- イ クラスや学年を超えて、教職員がリーダーへの指導を丁寧に行うことで、学校全体でリーダーを励まし、取組の充実を図っている。
- ウ 体育大会で中心となって取り組んだ生徒を、今後の学級活動や行事の中で活躍させることはもちろん、新たなリーダーを育成していかなければならない。

取組の成果（効果）『キーワード：継続は力』

- ア 学年が上がるにつれ、上級生としてこれまでの最高の踊りを見せようという意識が高まり、アドバイスが素直に聞き入れることができるようになる。そのことがより良い演技や、発表できたという自信につながっている。下級生も「来年は自分たちの番だ」という意識を強くしている。
- イ 小学校の運動会やアガデミア文化発表会での活動を通して、小学生も中学校に上がったなら、ソーランを頑張るって踊りたいという意識が芽生えている。

今後の展開『キーワード：自分たちで』

ア 中学生は3学期後半に、来年度の体育大会発表に向けて、2年生の演技「お漕ぎ船伝説」、3年生の演技「YAMATO魂」の練習に取り組むが、阿賀中ソーランの先駆者「YAMATOくれびと」の指導者に頼るだけでなく、卒業する3年生が高校入学までの間、後輩の指導に協力してくれている。

イ 現6年生は、今回、アガデミア発表会に出演した児童を中心として、体育大会のクラス発表に向け、4月1日の入学受付（入学通知書を提出したり、入学式の心得や作法の練習等を行ったりする）後、希望する生徒に対して、上級生が数回ソーラン講習会を開き、より多くの生徒に踊りを指導し、講習会に参加した生徒を中心に、学年練習や集団行動を含めたクラスづくりに結びつけている。

他校へのアドバイス『キーワード：交流の場の設定』

本校は小学校と隣接しているため、「受け継ぐ本気の力」というキーワードの核となるソーランだけでなく、行事の中で、比較的小中の交流の場を設定しやすい。小学校と隣接している中学校については、この強みをしっかり活かしていくとよい。

（例）生徒会の挨拶指導

小中合同挨拶運動

小学校陸上記録会参加に向け、中学校陸上部の生徒が指導

小学校の運動会での中学校吹奏楽部の演奏

合唱コンクール最優秀賞受賞クラスが小学校で合唱を発表

オープンスクールでの部活体験等

指定校番号	28094	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	呉市立昭和北中学校	校長	松田 恭尚	生徒指導主事	東風 剛
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『体育大会』

取組のねらい『キーワード…クラスの団結』

ア 学級集団の輪を広める中で、集団への所属感や連帯感を深め、協力してよりよい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。㊤㊦

イ お互いの健康と安全に留意し、粘り強くやり抜く力を育てる。㊧

※㊤㊦㊧は、生徒指導の三機能である。

取組の具体的内容『キーワード： one for all all for one』

- 1 各学年学級対抗方式を採用し、団結力を高める。
 - ア 本校の体育大会は、学級開きから1か月後の5月に計画されており、級友同士の結びつきがまだまだ薄いため、学級対抗方式をとり、同じ目標に向かって団結していくことで、級友の良いところを発見し結びつきを強くする場とする。㊤
 - イ 団体種目の練習は体育の授業の時だけでなく、始業前や昼休憩、放課後に行ってもよいこととする。㊦㊧
- 2 競技はもちろん、行進の評価も行う。
 - ア 入場行進の状況について全学級を評価し、予行演習（校長・保健体育科）と本番（校長・保健体育科・PTA役員・来賓）において、「元気よく歩いたで賞」をそれぞれ授与する。㊧

取組の課題・創意工夫『キーワード：自己有用感，所属感』

- 1 取組の課題

運動が苦手な生徒のやる気をいかに高めるか、また、その生徒に対する級友たちへの指導・助言をいかに行うかが課題である。
- 2 取組の創意工夫（生徒会の活躍の場を確保し、生徒が主体的に動くような体育大会にする。）
 - ア 体育大会のスローガンやプログラムの表紙図案を全校生徒から募集し、生徒会が決定した。決定したものはプログラムや懸垂幕に活用した。㊦㊧
 - イ 個人種目を決める時に、運動が苦手な生徒から優先して決めさせるように指導した。
 - ウ 全員リレーでは、走順やテークオーバーゾーンの工夫などについて、各クラスで検討を繰り返させた。㊦㊧㊨

取組の成果（効果）『キーワード：達成感』

1 1月にとったアンケートによると、「自分の良さがまわりから認められている」と肯定的に回答した生徒の割合が98%、「学校に来るのが楽しい」については97%であった。体育大会では、生徒同士が励まし合い、協力し合い、時には意見をたたかわせながら優勝に向かって心を一つにしようと練習に取り組み、本番ではクラスの一員として全力を出し切ろうとする姿が見られた。また、入賞できなかったクラスも達成感に満ちた表情が見られた。

今後の展開『キーワード：団結』

生徒の意欲を高めるために、生徒同士が協力しながら目標に向かって取り組めるものを様々な場面に取り入れていく。

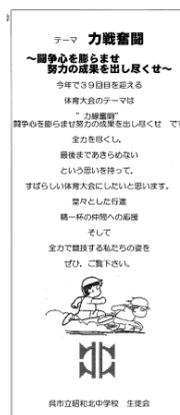
他校へのアドバイス『キーワード：生徒同士の絆を信じる』

生徒は、我々教職員よりも同級生からどう思われているかについて敏感に感じ取るし、結びつきも強い。大人から押し付けられたことには反発することもあるが、自分たちで決めたことはやろうと努力する。各教育活動を生徒の自主性や主体性をより尊重するものに改善し続けていきたい。

【本校体育大会の様子】



体育大会プログラム



懸垂幕



黒板に書かれたメッセージ



入場行進



台風の日



6人7脚



長縄



全員リレー

指定校番号	28095	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	竹原市立竹原中学校	校長	住元 康男	生徒指導主事	島 博明
-----	-----------	----	-------	--------	------

取組事例名 『縦割りでの運動会』

取組のねらい『キーワード：生徒の力で』

・今年度から全学年が3クラスとなり、縦割りで行うことができた。そこで生徒自身が生徒の前に立ち、自分たちの力で練習、本番を進めることで達成感や自己肯定感の向上を図った。

取組の具体的内容『キーワード：リーダーを中心に』

・これまでも男子の組体操，女子のソーランは，3年生のリーダーが中心となり，技や構成の決定，練習内容の検討等を行ってきた。

・入場行進での良き姿勢を全体練習の3年生の実行委員を中心に各クラスが協力して，1・2年生に見せた。また，真剣に取り組むことの大切さを伝えた。

・全学年共通の種目で学年ごとに争う種目について3年生の実行委員が中心となり，練習方法やアドバイスを1，2年生に指導をした。



各団の結団式の様子

取組の課題・創意工夫『キーワード：丁寧に』

・各クラスの実態やリーダーの力量をもとに担当部会の教員が事前に練習の取組み方や練習で予想されること等の打ち合わせを行った。

また，この事前打ち合わせをもとに3年生の教員が中心となって実行委員の生徒と打ち合わせを行った。

・生徒の取組の様子を教員が丁寧に観察を行い，日々の練習後に教員が生徒の様子について連携を行い，翌日の練習の取組み方等について検討を行った。

・3年生が1・2年生にアドバイスをを行っていること等を教員が共有し，様々な教員が生徒に肯定的な評価を積極的に行った。



2, 3年生合同の練習風景

取組の成果（効果）『キーワード：引き継ぐ』

- ・ これまでも男子の組体操，女子のソーランの実行委員を希望する生徒はいたが，今年度の運動会終了後には，2年生の中から来年の団長を希望する声や来年度の運動会をどの様に成功させるかの具体的な意見が出されていた。
- ・ 11月に行われた文化祭での合唱練習では3年生が1年生に合唱を聞かせる等の取組を行い，めざす生徒像を先輩から学ぶことができた。
- ・ 1月に生徒会執行部が2年生に移行したが，今年度の行事での体験を生かして，2年生がリーダー性を発揮し，日頃の委員会活動を積極的に取組む準備ができています。



今後の展開『キーワード：生徒会活動』

- ・ 運動会の経験を生かして，2年生がリーダーとなり日々の生徒会各種委員会の活動を充実させて，新たな伝統を創っていく。
- ・ これまでも検討はされてきた清掃活動の縦割り班の導入や文化祭での合唱を縦割りで行う等，生徒会活動の一環として年間を通して，縦割り班を導入していく。

他校へのアドバイス『キーワード：積み重ね』

- ・ 教員による仕掛けを日頃から行い，リーダーを育成しつつ，生徒による生徒のための活動の成功体験を積み重ねていくことが重要と考えます。

指定校番号	28108	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	三原市立第二中学校	校長	岡田 康浩	生徒指導主事	池田 義和
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『体育大会での取組』

取組のねらい『キーワード：本気の感動』

・生徒 1 人 1 人の役割に責任を持たせ、練習から全力で取り組む姿を生徒自身が作り出すなど、本気で取り組むことで、「本気の感動」を味わうことにより、主体性を育て、自己有用感を持たせる。

取組の具体的内容『キーワード：教員主体から生徒主体へ』

・縦割りによるチーム編成
 ・体育大会の取組に至るまでの生徒会活動の充実
 問題の発見・確認、議題の設定⇒解決に向けての話し合い⇒解決方法の決定
 ⇒決めたことの実践⇒振り返り⇒次の課題解決へ
 ・リーダー（団長）を中心としたチームづくり

取組の課題・創意工夫『キーワード：言いたいけれど…』

・「待つ」「我慢」の指導
 →チームづくりにぎこちなさが見られるが、教職員が敢えて口を挟まず、最後まで生徒自身にやらせきる指導体制を大切するよう全職員が共通認識を持って指導する。
 ・リーダーをサポートする態勢
 →継続的なリーダーの育成とそれを支える集団づくりが課題である。

取組の成果（効果）『キーワード：スタートライン』

・3年ぶりの「縦割り」による体育大会だったが、取組初年度としては、立派にやりきった。
 ・所属するチームや自己の生活上の課題を見だし、その解決のために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたり、人間関係をよりよく構築したりするなかで、特別活動における自主的・実践的な活動を果たすことができた。
 ・モデルがない中で、最初はどのようにつなげていくか試行錯誤したが、3学年担当教諭や体育科教諭が、生徒の主体性を促し、少しずつ機能していった。
 ・3年生の凄さが、その後の行事でも見られ、最高学年としての「良きモデル」が出来つつある。



今後の展開『キーワード：繋ぐ』

・今年度の取組を基準に、次年度に向けて、更にバージョンアップしていけるよう、現2年生にリーダーとしての自覚を如何に持たせるか、具体的な取組やその手立てを検討し、生徒主体の活動を推進する。
 ・生徒主体の活動を多く仕組むが、我々教職員が本校の生徒指導体制にどのようなビジョンを持って臨むか、全教職員で共通認識を図り、ベクトルを揃えた取組を行う。

他校へのアドバイス『キーワード：他校に比べれば、まだまだ…』

- ・生徒の主体性を育む取組として課題や改善すべき点はあるが、毅然とした生徒指導のもとで、生徒に「自主」「協働」「創造」を3年間で意識させて取組を進める中で、3年生のリーダーとしての頑張りが全校生徒や地域・保護者に伝わり、素晴らしい感動を創り上げられると感じた1年であった。
- ・安易に学校行事を進めるのではなく、目的や目標、めざす生徒の姿を求め、生徒理解や学校全体の現状把握を丁寧に行うとともに、明確なビジョンや計画性を持って全教職員がベクトルを揃えて取り組むことが重要である。



指定校番号	28112	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	尾道市立高西中学校	校長	西田 俊徳	生徒指導主事	土生 和之
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『生徒の自己指導能力を育成する体育大会』

取組のねらい『キーワード：リーダー育成』

- (1) 体育大会で縦割りを取り入れ、生徒の主体性を育成する。
 - ① 異年齢の集団の中で、上級生が下級生の見本となり引っ張っていく。
 - ② リーダーを育成していく。
- (2) 生活習慣「時を守り 場を浄め 礼を正す」を身につけさせる。
 - ① 練習の集合時間に遅れない。
 - ② 教室内の整理整頓をし、服は畳んで机上には物を置かない。
 - ③ 元気なあいさつができる。
- (3) 「チーム高西」の意識をもって、全員の力で行事をつくる。
 - ① 縦割りのチームや全校が、1つになって取り組んでいく。
 - ② 教職員が役割分担を明確にし、同じ方向を向いて指導を行う。

取組の具体的内容『キーワード：やり直し』

- (1) 生徒会執行部、実行委員、各種目リーダーを中心とした練習をさせる。
 - ① 練習では「始めの会」と「終わりの会」を行い、生徒会があいさつや指示・評価をする。
(あいさつなど充分でない場合は、やり直しをさせる)
 - ② 練習は、縦組みや学年、種目のリーダーを中心に指示や指導を行う。
(リーダーがやり直しの指示をする)
 - ③ 練習後は、リーダーによる反省会を行う。
(よかったところと直すところを確認し、明日の練習に繋げていく)
- (2) 練習始めの集合までを大切にする。
 - ① 教室は、整理整頓し服を畳んでグラウンドに集合する。
(学年の教員で見て回って、できていなかったら呼んでやり直しをさせる)
 - ② 立腰・黙想・あいさつを徹底する。
(きちんとできていなかったら、やり直しをさせる)

取組の課題・創意工夫『キーワード：待つ』

- (1) 今まで、教員主導・学年対抗でやってきただけに、どう動いたらいいか生徒にイメージがなく、リーダーは戸惑いもあり、練習がはかどらなかった。
- (2) リーダーが大勢の前で、大きな声を出して堂々と指示・指導ができない。
- (3) 練習の初期は、集合や指示まで時間がかかり、スムーズに練習ができなかったが、すぐに教員が出て行くのではなく、できるだけ『見守る姿勢』を心がけることにした。
- (4) 教員とリーダーが、細かい打ち合わせをする時間が必要である。
- (5) 教員の意識を変えるために、繰り返し話し合いを行った。

取組の成果（効果）『キーワード：徹底』

- (1) 3日目から、整理整頓ができ集合がスムーズにいくようになった。
- (2) 練習の後期では、リーダーが大きな声で指示・指導するようになった。
- (3) 教員の意識が同じ方向を向き、同じ指導ができた。
- (4) 生徒の事後のアンケートによる満足度82%
- (5) 保護者のアンケートによる肯定的な評価93%と高かった。

今後の展開『キーワード：場を作る』

- (1) 生徒会や学級委員などが、活躍できる場を増やしていく。
 - ① 学年朝会や学年行事などで、生徒が発表する場面、指示・指導する場面をつくっていく。
 - ② 生徒会活動を、活性化させていく。
- (2) 生徒が意欲的に取り組めるようにさせる。
 - ① 肯定的な評価を積極的にしていくことで、自信をつけて意欲を引き出す。
 - ② 準備に時間をかけて、みんなの前でやるときに恥をかかせない。

他校へのアドバイス『キーワード：自己存在感』

- (1) 生徒と打ち合わせをすることによって、意識も変わっていく。
- (2) あせらず「待つ」ことにより、生徒に「自分たちでやろう」とする意識が芽生える。
- (3) できたこと・頑張ったことは、しっかりほめ、評価する。

指定校番号	28114	学級活動	児童会・生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
-------	-------	------	-----------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中中学校	校長	池田 哲哉	生徒指導主事	有永 昌樹
-----	-----------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『第2回運動会』

取組のねらい『キーワード：自主・自律・自治』

- ・各行事を通して、生徒一人一人が府中中学校の生徒の一員としての自覚と責任をもつ。さらに仲間とともに自主・自律・自治能力の向上を目指し、安全・安心して生活できる学校につなげる。

取組の具体的内容『キーワード：集団力の向上』

◇リーダー育成

- ・リーダーを決定する際に、一人一人面談を実施し、決意を確認した。
- ・リーダーとしての自覚と責任をもち集団を動かすために、リーダーとしての在り方などについて繰り返し指導した。

◇フォロワーの育成（リーダーに孤立感をもたせることなく、全員が安心して活動できる環境づくり）

- ・リーダーの活動を生徒全員がフォロワーとなり、サポートする体制づくりを徹底した。



◇規律の徹底

- ・組織的な生徒指導体制の確立を図り、生徒一人一人が安全に、安心して活動できる環境の整備に努めた。
- ・自分勝手な行動をさせない、わがままを許さない、皆が同じ方向を向き、全力を出し切れる指導の徹底を行った。⇒自分勝手な行動が $100 - 1 = 99$ ではなく、0になることをあらゆる場面で伝えた。

取組の課題・創意工夫『キーワード：生徒主体型活動』

◇生徒が自ら考え活動できる集団へ

- ・リーダーの活動を活性化し、リーダーを中心に主体的に活動できる集団を目指す。
- ・リーダーが中心となり活動計画を立案し、目標達成に向け生徒全員が同じ方向に向き取組む。
- ・生徒が自己決定をし、主体的に取り組んでいる活動を肯定的に評価しながら集団力の向上へと繋げる。



取組の成果（効果）『キーワード：何事も全力を出し切れる集団へ』

☆生活アンケートより

項目	肯定的評価 5月	肯定的評価 10月
①自分のよさはまわりの人から認められていると思いますか。	73.9%	74.7%
②学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがありますか。	85.5%	90.3%

【生徒の感想より】

- ・全員が一丸となり目標を達成できたことがとても嬉しかった。
- ・しんどいとき、友だちが声をかけてくれたから最後までがんばれた。

◇取組の成果（効果）

- ・府中中学校生徒の一員としての所属感と責任感が高まっている。
- ・行事を通して、「一生懸命はかっこいい」・「全力の先に感動がある」ことを実感することができた。
- ・行事でつけた力を生活に生かす⇒当たり前前の行動が普段の生活でもできる集団へ。
⇒さらに、当たり前前の一歩先の行動を考える集団への成長に繋がっている。
- ・リーダーと、リーダーを支えるフォロワーの意識がこれまでより高まり、これまでよりも一人一人が集団のことを考え行動することができている。
- ・規範意識が高まり、問題行動の減少に繋がっている。

今後の展開『キーワード：より高みを目指し』

◇授業改善

- ・授業改善が最大の生徒指導と言われているように、「主体的な学び」の創造に向けた授業改善に取り組む。特に課題発見・解決学習の工夫に力を入れ、校内外の研修に積極的に参加し、全教員が同じ方向を向き、生徒が基点となる学びに繋げていく。

◇生徒主体型活動の充実

- ・継続して生徒主体型活動をより一層充実させる。一人一人の自己肯定感を高める指導の工夫・改善を徹底して行う。



★考動★

～当たり前前のレベルを上げ
一歩先のステージへ～
来年度、義務教育学校への
移行を視野に入れた集団に成長できるように。

他校へのアドバイス『キーワード：生徒指導体制の確立』

◇生徒指導規程の徹底

- ・生徒指導規程に沿った、ぶれない指導とやりきらせる指導を教職員が共通認識のもと徹底して行う。

◇報告・連絡・相談・確認体制の徹底

- ・週1での生徒指導部会と日々の報告・連絡・相談体制を徹底する。さらに生徒指導主事が確認を徹底して行うことにより、縦と横の連携体制を確立させる。

校番	44	ホームルーム活動	生徒会活動	学校行事	○	別紙様式
----	----	----------	-------	------	---	------

平成 28 年度生徒指導集中対策指定校及び生徒指導実践指定校 「特別活動の取組事例」

学校名	黒瀬高等学校	校長	馬屋原幸孝	生徒指導主事	三村勝彦
-----	--------	----	-------	--------	------

取組事例名 『体育祭準備』

取組のねらい 『リーダー育成』

黒瀬高校は、「荒れ」と言われていた時代を持ち直し、近年は問題行動も極端に少ない落ち着いた高校へと変化していった。今後は、地域社会の問題解決や発展のために尽力する人材を多く輩出する学校へと進化していかなくてはならない、そのためにはあらゆる機会を通じて人をまとめることの出来るリーダーを育成していくことが必要と考えた。

取組の具体的内容 『生徒会の自立』

生徒による主体的な活動を発信する場所はやはり生徒会であろう。この発信元が「やらされている」感を持つと、学校全体がそのような雰囲気になりかねないので、生徒会会議を重ね意識の変化を促し自立へとつなげた。



☆生徒会会議の様子

取組の課題・創意工夫 『黒高レンジャーを活かす』

本校では、「黒高レンジャー」というボランティアグループがある。挨拶・美化・掲示・地域・花・旗掲揚など仕事別にグループ化されており、約 100 名が参加している。

この活動内容は生徒自らが企画・立案し、実践、振り返りを行っており、そうしたノウハウを生徒会が学び取り入れた。



☆レンジャー光景

取組の成果（効果）『主体性の向上』

体育祭は学年対抗という変則的な形をとっている。まずは、各学年を取りまとめるリーダー育成を目的としている。各学年を学年リーダーがまとめ、最終的に全校を生徒会がまとめていくことによって、役割分担が明確になった。また、係りにおいてもリーダーを生徒会が任命することで、より主体性が向上した。

その結果、体育祭前日には生徒自らが行進練習を提案し実行したり、リーダーからの講話も行われた。こういった変化は本校においてはとても革新的であり、生徒が自ら学校の変化を促している証と考える。



☆リーダーを先頭にした行進練習

今後の展開『リーダー育成の発展』

本校においては「リーダー育成」ということは非常に難しい問題である。成功体験をあまり持ちえない生徒が多いため、自信を持って誰かに語りかける、大きな声を出すといったことが苦手な生徒が多い。そういったことから、成功体験への導きが今後の課題となる。また、フォロワーとしての役割なども理解させ、一つの目標に向かってリーダーを中心として、個々が役割を果たし充実感や自己存在感を獲得させることを考えていきたい。

他校へのアドバイス『信じてやらせる』

このキーワードは昨年からのものですが、黒高レンジャー、学校行事等において、随分チャレンジする姿勢が見られていたように感じます。生徒には、『当たり前のこと+1をした時に人は多きく成長する。その結果については素直に受け入れる。』講話の機会を捉えて常に伝えていきます。このことは、進学にも大きな変化を見せて、進路に対してチャレンジする姿勢が見られるようになりました。放課後も暗くなっても学習する三年生が増え、その結果、国公立大学へ2名が合格しました。そういったリーダーとしての姿が下級生への何よりのメッセージとなっています。